祝　詞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様にも心からお祝いを申し上げます。

卒業生の皆さんは今日、大きな節目、大切な別れと旅立ちの時を迎えました。６年間にわたる遥かな日々は今日、完結します。時は前にしか流れません。どうか、母校にしっかりと最後の挨拶をして下さい。戻りたくとも戻れない母校に。

私は今でも、小学校卒業直後の切なさが忘れられません。もうあの教室に帰ることはかなわないのだと、自分の机や椅子が変わらずにあるはずの校舎を見上げながら感じたもどかしさを。

生命は太古、海で誕生しました。

そして人は誰もが、母のお腹の中から生まれますが、母の胎内は、海水によく似た羊水に満たされているのです。生命の不思議。母の胎内の海の中で、約３０億年以上前といわれる生命誕生の瞬間と同様の事が起こり、僅か１０か月の間に遠大な進化の過程を辿るように、外界に出ても大丈夫というところまで成長して、初めて産声と共に生まれ出づるのです。

母の胎内には生命を誕生させる海がある。子にとっては、海というより世界の全て、宇宙そのものかも知れません（母は胎内に宇宙を持っている？）。そして人はまたそこに帰りたいという胎内回帰の願望を本能的に持つのだそうです。

さて、それと同じように、皆さんは今日まで、この母校の中で、大きく成長してきました。ここで出逢った先生は皆さんにとって一生の先生であり、友達は生涯の友人となるでしょう。そして今日は思いを込めて母校から新たな世界へと踏み出す日です。

皆さんは今、輝いています。皆さん全員です。皆さんは今、人生の中でも、身も心も最も大きく成長する時、萌え出づる若葉が目にも鮮やかに瑞々しく伸びゆく、そんな時の只中にいます。そして前途洋々、必ず今よりさらに輝く未来が皆さんを待っています。

間もなくこのさくら市の桜も開花を迎えることになりますが、皆さん自身の人生という何よりも大切な花が、見事に咲き誇ることを心から念願して、お祝いの言葉と致します。

令和２年３月１９日

さくら市長　　花塚　隆志